

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700121		
法人名	株式会社ユニマットそよ風		
事業所名	天神川ケアセンターそよ風(東ユニット)		
所在地	京都市右京区西院西田町61番地		
自己評価作成日	平成26年2月14日	評価結果市町村受理日	平成26年6月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に公園、小学校があり天神川沿いの数百メートルに渡る桜並木、環境も社会資源も充実した所に立地しており入居者様も居室から眺めたり、花見に出かけたりと楽しい時間を思い思いに過ごして頂けるような支援に努めています。町内会、老人会、などで安心して施設を利用して頂いたり、園児、児童の施設訪問で交流を深めたりして頂き、地域の方とのふれあいを大切にしています。大丈夫そよ風があるから そよ風でよかった と地域の方や入居者、家族に満足して頂けるよう努力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=2690700121-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年3月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、管理者を中心とし職員間が連携良く寄り添う介護を心がけ、利用者の言葉や表情、行動から思いを汲み取り、楽しんで暮らすことができるよう支援しています。法人内やホーム内で研修が充実しておりスキルアップに取り組み、特に身体拘束に繋がるような事例には職員から問題提起がなされたり、ケア会議では利用者の立場になって考え意見を出し合い日々の支援に繋げています。また、運営推進会議には多くの地域の方の参加を得て開催し、自治会から地域の花見や秋祭りに招待を受け利用者や参加したり、回覧板に事業所の情報を載せてもらう等、地域との良好な関係が築かれています。年に2回家族との食事会を行い、日頃の利用者の様子を知ってもらい気軽に話ができる機会を作り、利用者・家族が入居してよかったと思えるホームを目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で理念を唱和し共有して実践に努めている	法人の理念の基、職員にアンケートをとりホームの理念が作られ、ユニット間の廊下に掲示しています。寄り添う介護を謳った理念を管理者は入職時に職員に伝えています。日々に職員が意識することは少ないですが、管理者が中心となって実践していけるよう指導しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事、清掃活動、防災訓練等の参加を通して交流している	自治会に入会し、地域の花見や秋祭りに招待を受け利用者に参加したり、防災訓練には職員が参加しています。回覧板に事業所の情報を載せてもらうこともあり、利用者と一緒に持つて行くことが習慣となっています。また、歌のボランティアの来訪や小学生の職業体験の受け入れを行い交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事にデイルームを開放している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上に活かせるように努めている	会議は、町内会会長や老人会代表、福祉推進委員、地域包括支援センター職員、家族等の参加の下、隔月に開催しています。活動報告や活動の評価を行い、参加者から助言や要望をもらっています。会議で古布の収集について議題に挙げ、回覧板で地域への依頼に至る等、参加者から意見をもらいながら運営に反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じた体制で出来る限り協力出来るように努めている	運営推進会議の議事録の提出や必要な届け出に区役所に出向いた際に、ホームの状況について伝えていきます。また、区のグループホーム連絡会に出席し、情報を得るとともにホームの実情を知ってもらう機会にもなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	エレベーター等テンキー等一部制限しているが、研修会やユニット会議などの話し合いにて意識向上に努めている	職員はホーム内の研修やDVDを観て、身体拘束をしないケアについて学んでいます。ホームは2階にあり、フロア入り口の施錠は行わず自由に行き来ができ、下階に下りるエレベーターはテンキーで制限しています。外に行きたい様子の利用者には、否定せずに1階に下りたり外に出る等、拘束感を感じないよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会やユニット会議などの話し合いにて意識付けを実施している		

天神川ケアセンターそよ風(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などで学ぶ機会を設けているが充分活用されていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解・納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要に応じて機会を設け意見を反映出来るように努めている	毎月職員が手紙に書き利用者の様子を伝え、面会時や電話で家族に意見や要望を聞いています。家族の声から職員の名前をホワイトボードに書くようになったり、食事の進まない利用者について家族と相談し飲酒に繋げる等、家族からの意見を大切にサービスに活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議において意見・提案を聞く機会を設けている	併設する事業所との合同で行う全体会議やユニット毎の会議等の際に、意見や提案を聞いています。研修やレクリエーションなどは委員を決め、委員を中心に提案を出し職員で検討しながら運営に活かしています。年に一度はセンター長との個人面談があり、意見や思いを言う機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分とは言えないが努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	十分とは言えないが研修会や勉強会は行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同の研修会や勉強会には参加しているが、十分ではない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の声に耳を傾け、寄り添い安心して頂ける関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なくサービスを利用して頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じたサービスが出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支え合えるような関係を築けるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加のイベントを開催し一緒に過ごす時間を大切にして頂けるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	十分ではないが親戚・友人が訪ねて気安い施設であるように努めている	以前近隣に住んでいた友人が遠方からよく会いに来られている方もいます。家族の協力を得て、墓参りや行っていた美容院などの馴染みの場所へ出かけています。今後更にホームでも自宅や懐かしい場所への外出も支援したいと考えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士で入浴・散歩・歌唱・食事などを楽しんで頂けるように支援している		

天神川ケアセンターそよ風(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	十分ではないが出来る限りの支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位の希望・意向を把握できるように努めている	入居時に本人や家族に生活歴や意向を聞いたり、書面に書いてもらい思いを把握しています。入居後は利用者の言動を記録に残し、思いを汲み取れるよう取り組んでいます。困難な場合は、利用者の日々の情報を整理しアセスメントを充実させ、思いの把握に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの生活歴情報やサービス利用情報を得るように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やアセスメントにより現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて話し合い、現状に即した介護計画を作成するように努めている	本人の思いや家族の意向、アセスメントのもとカンファレンスを行い介護計画を立てています。毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎に実施状況を振り返り評価しカンファレンスで見直しています。往診時の医療情報や毎月の鍼灸師の意見書等も必要時計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を理解し介護計画の見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて検討し取り組んでいる		

天神川ケアセンターそよ風(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園や小学校への散歩などを通じて暮らしを楽しむことができるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による訪問診療により適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の選択ができることを説明しています。以前からのかかりつけ医を継続している方もおり、家族が受診の対応を行い家族を通して情報交換しています。ホームの協力医は毎週来訪があり、利用者は隔週診療を受けています。24時間協力医と連絡が取れる体制は整えられています。希望や必要に応じて歯科や皮膚科の往診を受けることもできます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制の対応のもと情報を共有し連携が取れるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と必要に応じて情報を共有し連携を取っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針をもとに本人・家族などと話し合い必要に応じた支援をしている	ホームの重度化や看取りの対応指針があり、状況が整えば看取りの支援も行えることを入居時に説明しています。食事が摂れなくなった時等の病状の変化に合わせ、医師や家族等と話し合い方針を共有し支援しています。マニュアルを整えたり、デイサービスの機械浴の利用など、重度化に向けて体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習や緊急時対応マニュアルに基づいた対応が出来るように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な災害訓練の実施・マニュアル作成により身につくように努めている	避難訓練は併設施設と合同で昼間を想定して行い、ホーム独自でも夜間想定で実施しています。運営推進会議等で地域の方にも訓練の参加を依頼し、自治会長が来られることもあります。また、かんぱんや水、缶詰等の備蓄を備えています。	

天神川ケアセンターそよ風(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分とはいえないが、会議・研修会などで意識付けるようにしている	年に1回は接遇マナーについての研修を行い、利用者に尊敬の念を持って対応することを心がけています。不適切な対応があった時には、その時に注意をしたり会議で相手の立場に立って考え、振り返り改善できるよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を傾聴し自己決定出来るように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分ではないが、希望に沿った支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り楽しむ事が出来るように支援している	職員が利用者の希望を聞きながら季節の旬のものを取り入れるよう配慮し献立を考え、食材を業者に発注しています。利用者のできる事に携わってもらいながら調理し、職員も同じ食卓に着き音楽をかけながら和やかな食事の時間となるよう支援しています。時には寿司や弁当等の出前をとったり、外食に出かけることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分ではないが個別に対応出来るように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合ったケアを支援している		

天神川ケアセンターそよ風(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握しながら出来る限り自立に向けた支援に努めている	チェック表を用いて個々の利用者の排泄リズムを把握し、タイミングに合わせてトイレ誘導を行い失敗が減らせるよう支援しています。状況を観ながら紙パンツやパッド等その人に合った物を選んだり、職員間で検討し、自立に向けて取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた働きかけに努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決められた時間帯での入浴になっているが、無理のないように支援している	毎日入浴の準備を行い、基本的には17時30分まで週に2~3回希望を聞きながら入浴してもらっています。状況によっては19時くらいまでシャワー浴を支援することもあります。一人ひとり湯を入れ換え気持ち良く入ってもらい、希望があれば毎日の入浴も可能です。拒否される時には時間を置いたり、言葉かけの工夫をするなどの支援で入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し休息して頂けるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報を共有し適切な支援が出来るように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみに応じた支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩・買い物などは制限なく、家族との外出も制限なく出かけられるように支援している	回覧板を利用者と一緒に行ったり、利用者の希望で衣類などの買い物に個別で出かける等の支援をしています。回転寿司やホテルへの外出支援をしたり、季節に応じて初詣や花見などの外出行事を行っています。今後、日常的な散歩などの外出支援を増やしていきたいと考えています。	

天神川ケアセンターそよ風(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の所持や使用は可能な場合は支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限なく支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花・飾り・写真などで共用空間を工夫している	共用空間は季節の飾り付けをしたり、蛍光灯の色も落ち着いた色を選び、日差しもカーテン等で明るくなり過ぎないように配慮し、利用者にとって居心地の良く過ごせるようにしています。リビングにソファを置き寛げる場所を作ったり、利用者同士の関係も考慮しテーブルの配置を工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファの配置を工夫し思い思いに過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある物を本人・家族の意向を取り入れている	全室洋室でベッドと箆笥が備え付けられ、入居時に利用者の使い慣れた物を持って来てもらうよう伝えています。箆笥やテレビ、家族と過ごすテーブルや椅子を置いたり、趣味の花の本やぬいぐるみ等を持って来られています。希望があり利用者の状況が適する時には、カーペットや畳を敷き布団で休んでもらうことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分とはいえないが工夫している		